

Y01a 筑波大学「理数学生応援プロジェクト」における最先端研究体験企画

川勝望、白川友紀、本多正尚、戸田さゆり（筑波大学）

文部科学省は平成 19 年度から理数分野に関して強い学習意欲を持つ学生の意欲・能力をさらに伸ばすことに重点を置いた委託事業「理数学生応援プロジェクト」を開始した。筑波大学は平成 21 年度に採択され、理工農系の 1-3 年生を対象にした「開かれた大学による先導的研究者資質形成プログラム」を実施している。本プログラムでは、研究者が科研費を申請し採択され、研究費を得て研究し、研究成果を発表してステップアップしていくという研究者生活と同様の過程を学生に体験させている。平成 21 年度は、25 件の研究計画書の申請があり、22 件の研究課題が採択された。そのうち、参加学生から 5 件の国内学会の発表があった。その一方で、研究意欲はあるが具体的にどのように研究計画を立て、どのように研究発表を行うか分からない学生もおり、事前の指導や動機付けも必要であることが分かってきた。そのために、我々は最先端の研究に携わる研究者と交流する機会や最先端研究に関するセミナーを聞く機会が持てる「最先端研究体験企画」を用意した。平成 21 年度は、学生からの要望が多かった天文分野に関わる企画ということで、すばる望遠鏡体験企画を考案した。

本企画では、すばる望遠鏡の見学やハワイ山麓施設ですばるの最新成果に関する講演を聞くことに加えて、参加学生に将来研究したい内容について発表をしてもらった。発表会では研究者の方から有益な指摘をもらい、今後の進路や研究テーマを決める手掛かりを得たようである。このような試みは始まったばかりだが、意欲ある学生を選抜し、最先端研究を体験させことの重要性を実感した。本講演では、参加学生やハワイ観測所スタッフの評価を交えながら、すばる望遠鏡体験企画の成果について報告する。